

経年変化・目標値比較

目標値

2030年（令和12年）度時点で、次の排出量を目指します。

- 事務系 4,718 t-CO<sub>2</sub>
- 事業系 9,720 t-CO<sub>2</sub>
- 全体 14,438 t-CO<sub>2</sub>

〔※ 2013年（平成25年）度比46%以上削減〕

全体の傾向

令和6年度の本市の事務・事業活動に伴う温室効果ガス排出量は、25,854 t で、昨年度より増加しました。現状のまま推移した場合、削減目標値である14,438 t（2030年（令和12年）度時点）を達成できない見込みのため、さらなる取組が必要です。

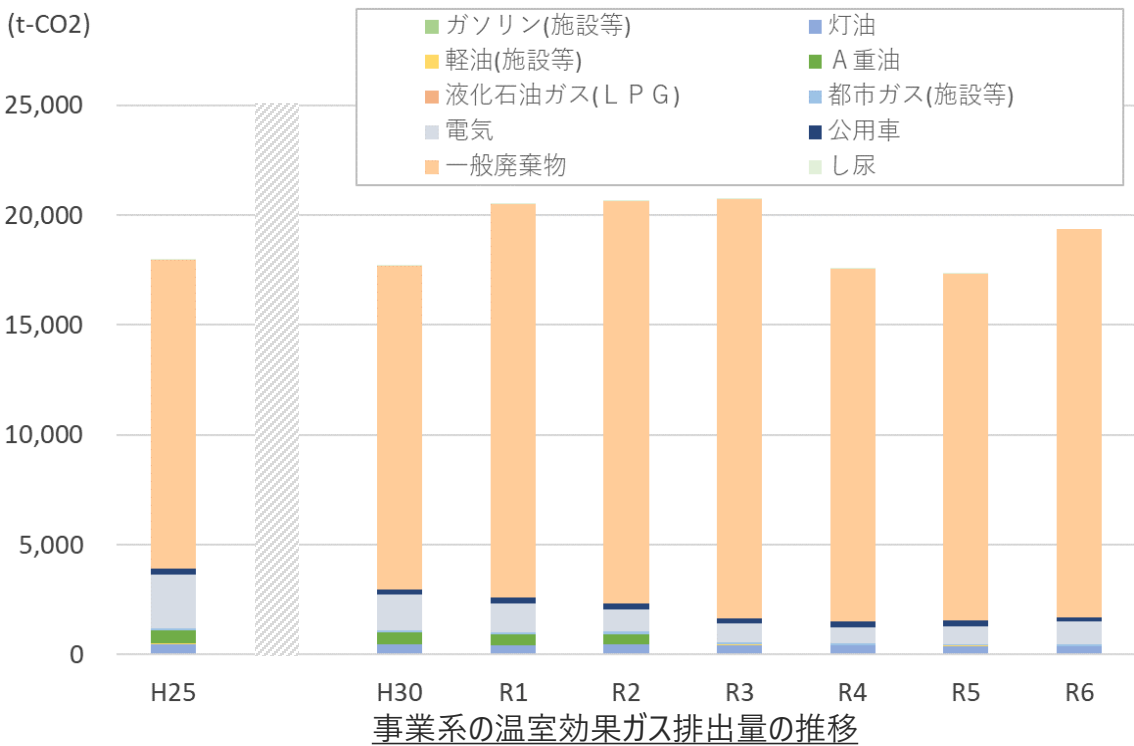
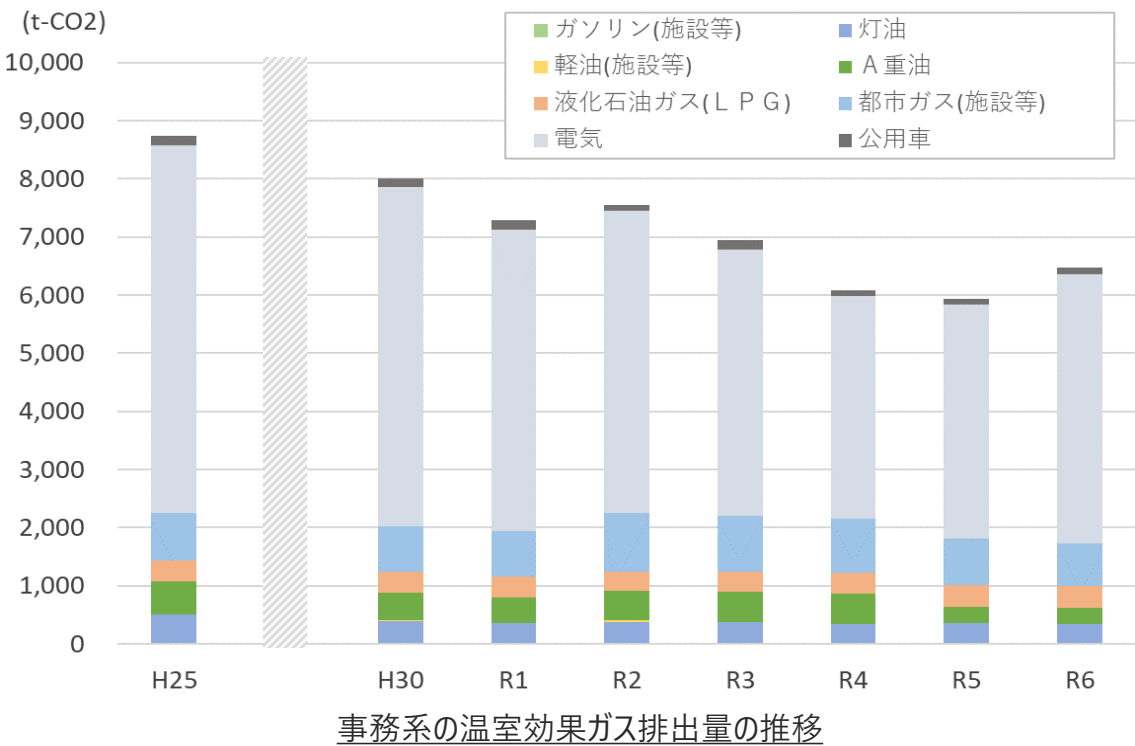
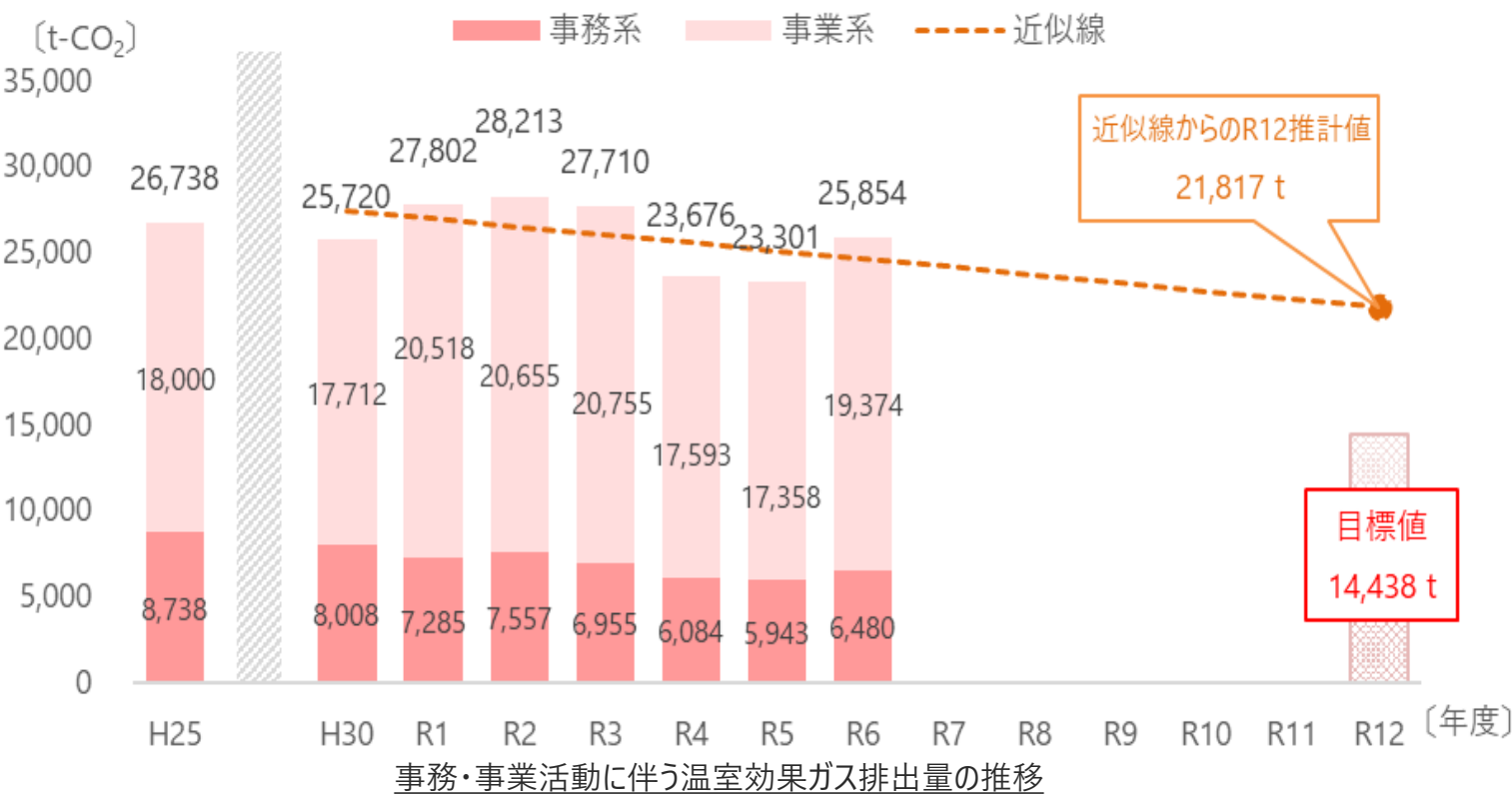
要因分析

○電気使用に係る排出係数の増加

電気使用量は減少していますが、電気使用に係る排出係数の増加により、電気使用による排出量は、昨年度より増加しています。

○廃プラスチック量の増加

一般廃棄物焼却量は減少していますが、含まれるプラスチック類の量が増加しており、それに伴って排出量も増加しています。



分野別排出状況：事務系

排出量内訳

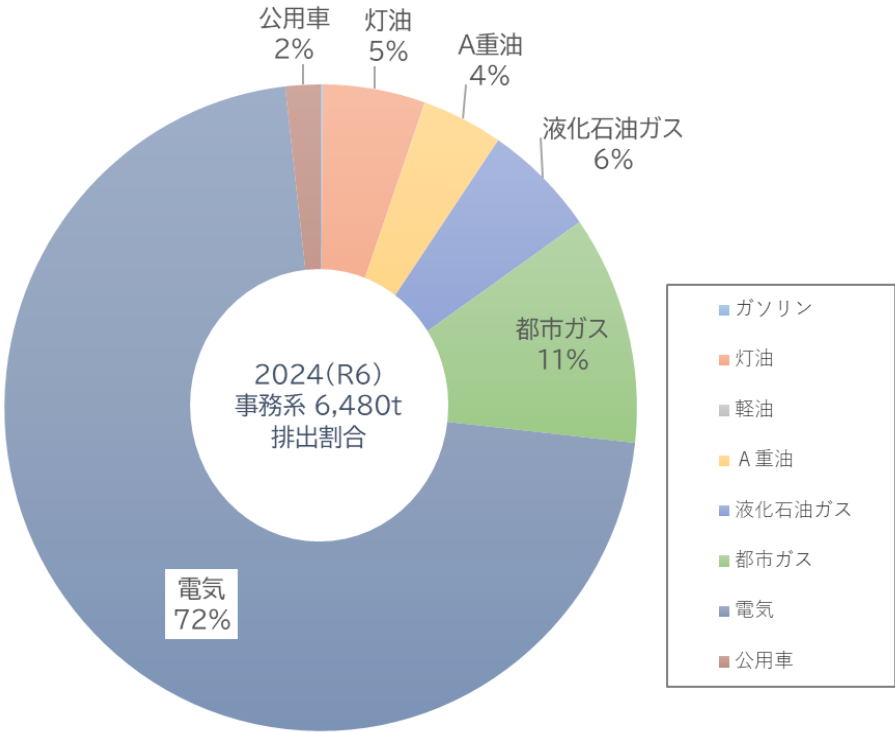
事務系（非事業系）における温室効果ガス排出量は、6,480 t となりました。このうち、電気使用に伴う排出が全体の72%を占め、以下、都市ガス（11%）、液化石油ガス（6%）、灯油（5%）、A重油（4%）、公用車（2%）の使用と続いています。

施設別排出量

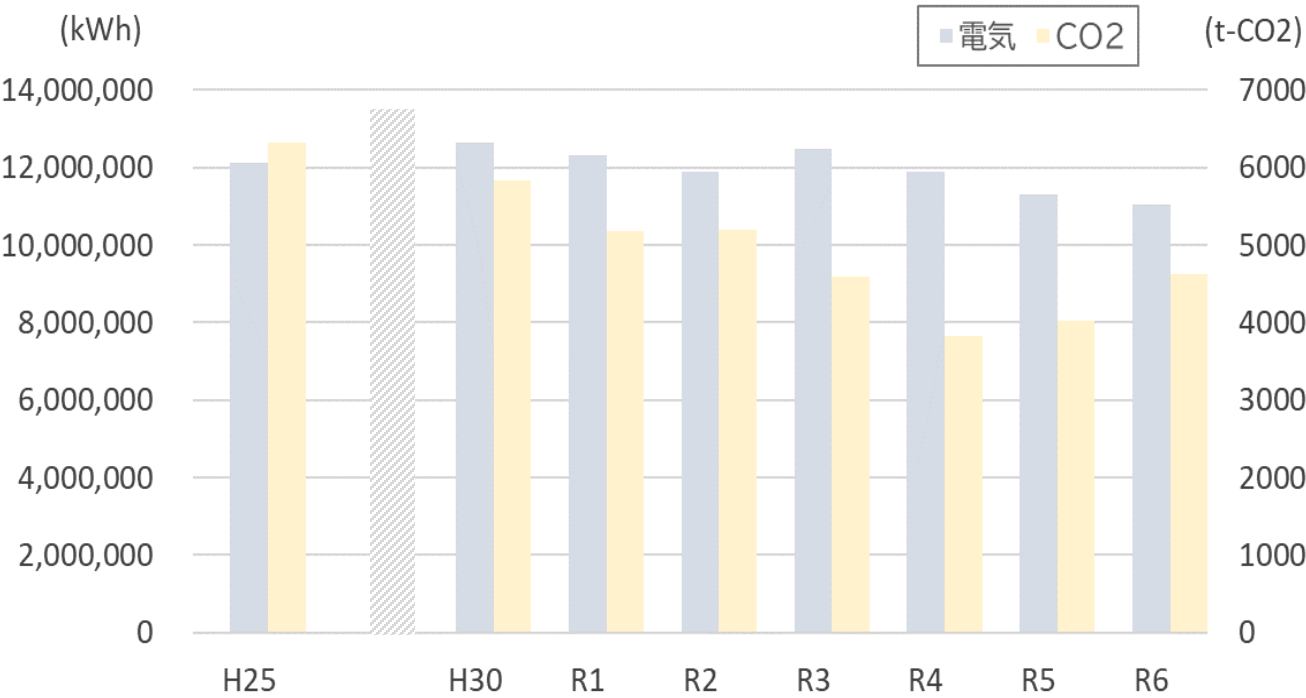
施設別では、「かしはら万葉ホール」が562.91 t で最も多く、「シルクの杜」が460.77 t 、「分庁舎」が376.93 t 、「昆虫館」が331.81 t と続きます。利用の多い文化ホールや体育施設からの排出量が多い傾向となりました。また、多くの施設が昨年度より排出量が増加しています。

要因分析

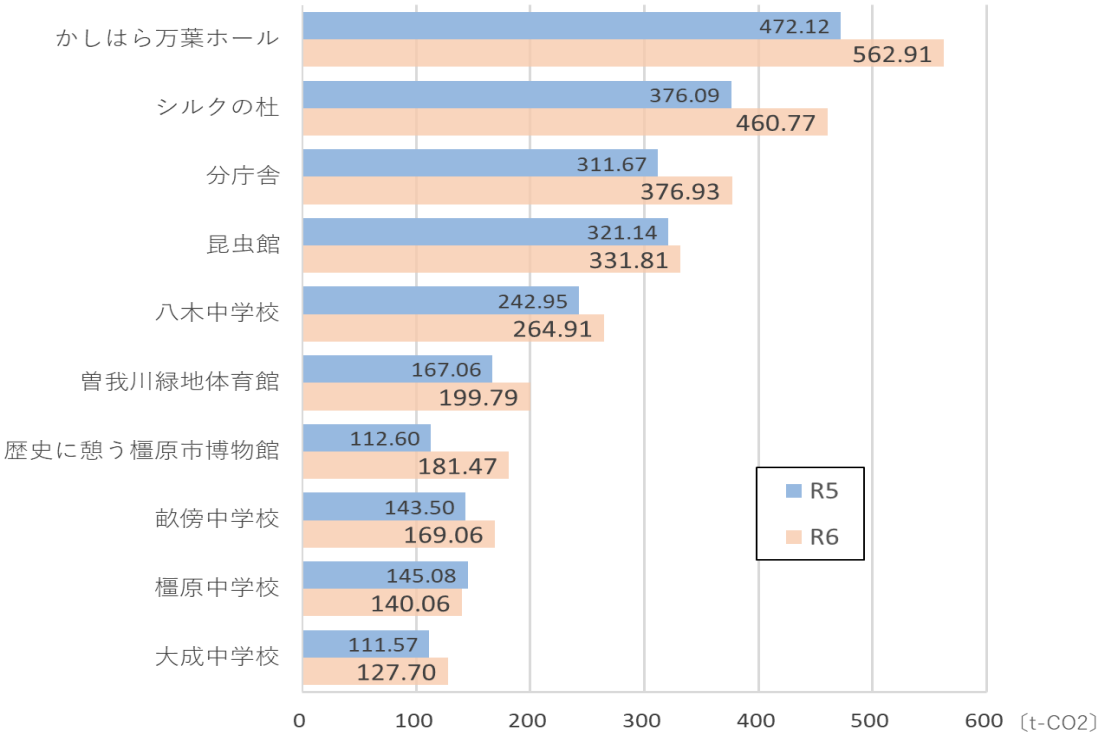
電気使用に係る排出係数については電力会社ごとに異なるため、一概にトレンドをつかむことは難しいですが、関西電力における排出係数は昨年度の0.360kg-CO2/kWhから今年度は0.419kg-CO2/kWhに増加しています。そのため、電気使用量は減少しているにもかかわらず、電気使用による排出量は、昨年度より増加しています。



事務系の温室効果ガス排出量の要因別構成比率



電気使用量とそれに伴う温室効果ガス排出量の推移（事務系）



事務系施設別排出量（令和6年度実績：上位10施設）



事務系では各施設における省エネが課題となっています。

分野別排出状況：事業系

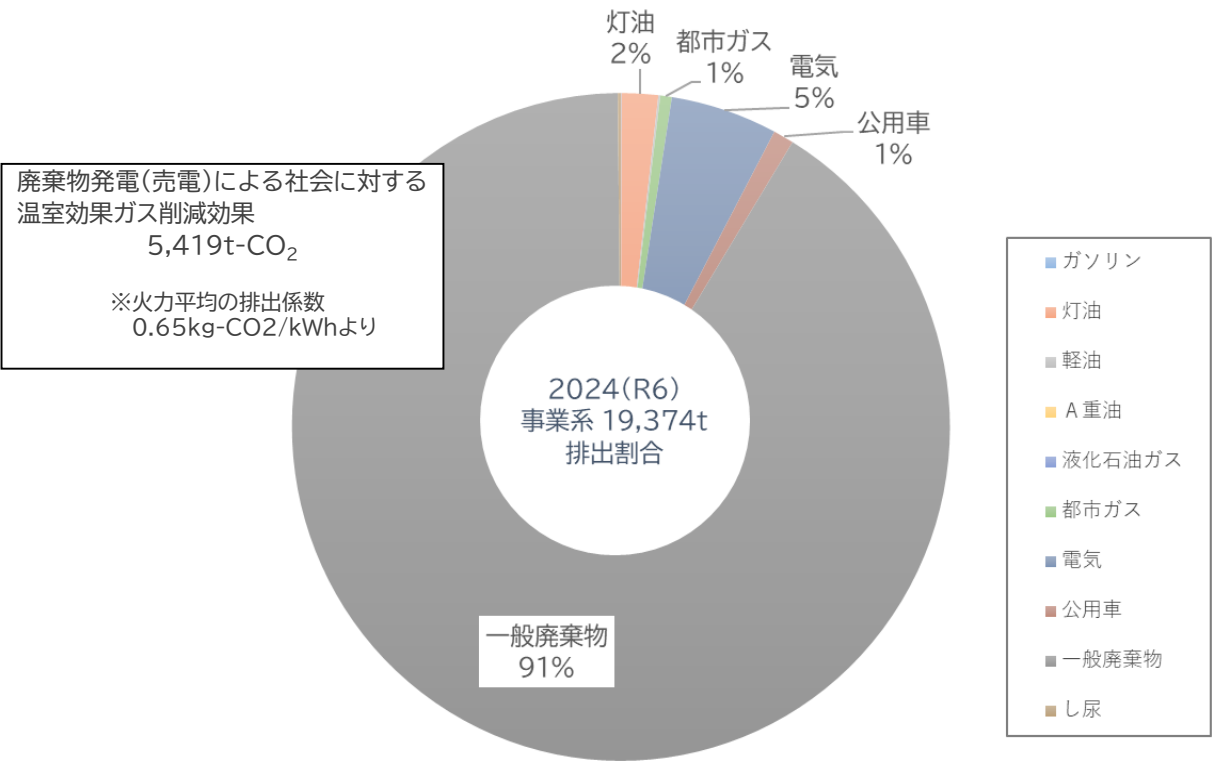
排出量内訳

事業系における温室効果ガス排出量は、19,374 t となりました。このうち、一般廃棄物の燃焼（廃プラスチックの焼却を含む）に伴うものが、事業系全体の91%（17,652 t）を占めています。

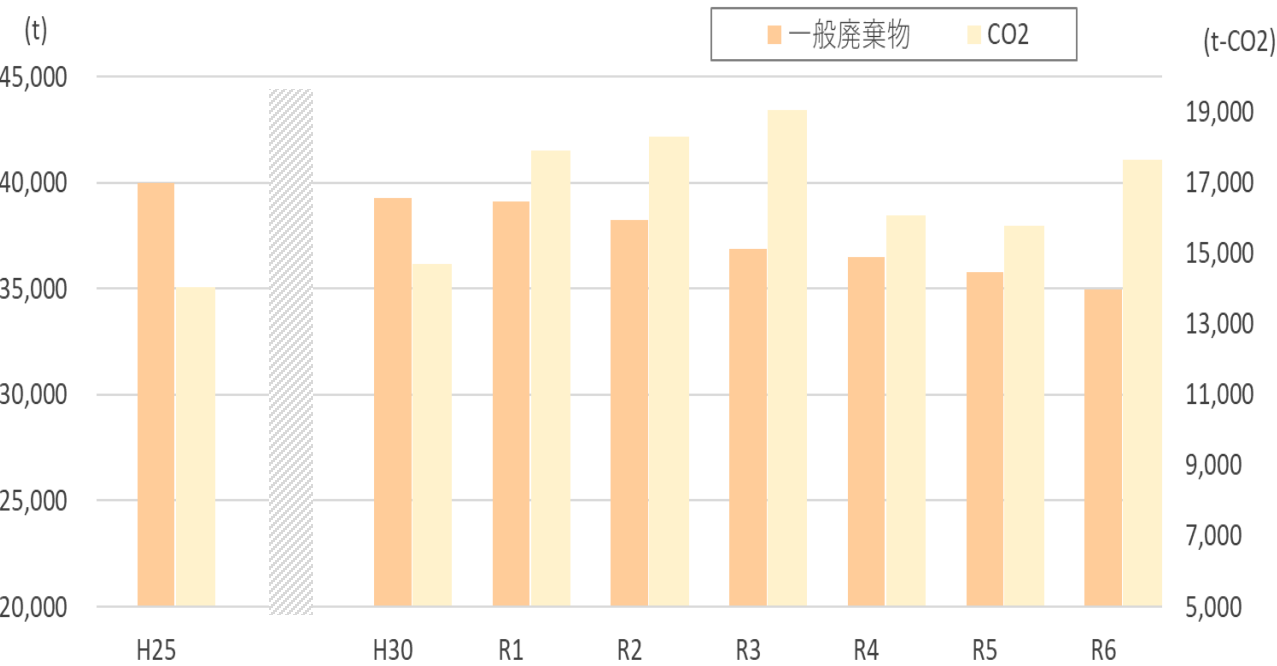
なお、クリーンセンターかしはらでは廃棄物発電を行っており、自家消費および売電を行うことで温室効果ガス排出量の削減に貢献しています。

要因分析

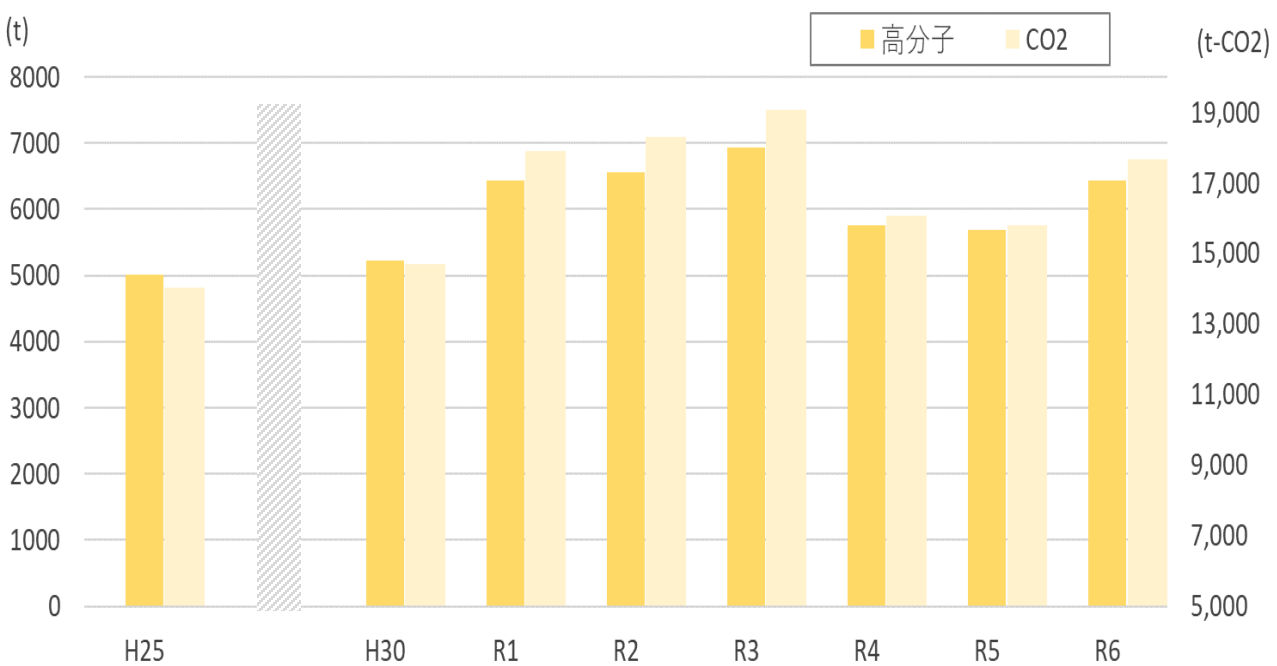
一般廃棄物焼却量は減少していますが、温室効果ガス排出量は増加しています。これは、一般廃棄物焼却量におけるプラスチック類の量が増加しており、それに伴って排出量も増加していることから、排出量の増加は廃プラスチック類の増加によるものであると考えられます。



事業系の温室効果ガス排出量の要因別構成比率



一般廃棄物焼却量とそれに伴う温室効果ガス排出量の推移



一般廃棄物焼却量におけるプラスチックの量とそれに伴う温室効果ガス排出量の推移



事業系では廃プラスチック類の分別・減量が課題となっています。